

政治学委員会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会(第 26 期・第3回) 議事録

日 時 令和6年 11 月 16 日(土)12:15～14:05

開催場所 札幌コンベンションセンター1 階会議室 102 及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催

出席者:鈴木基史、石田淳、宇山智彦、大芝亮、亀山康子、古城佳子、武田康裕、竹中千春、栗栖薫子

欠席者:中西寛、都丸潤子

配布資料

資料1 未来の学術振興構想一覧表

資料2 未来の学術振興構想 5. 海外エキスパート・サーベイ

資料3 満州引揚者の日誌

資料4 帰還経路地図

資料5 大臣決定

資料6 有識者懇談会中間報告

資料7 学術会議の懸念

追加資料 会員選考の在り方に関する議論

議題

(1)公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」の結果報告と成果のとりまとめについて

10月5日(土)、東京大学駒場キャンパスにおいて公開シンポジウムが無事開催され、オンライン参加を含めて80数名の出席があった。コソボ共和国サブリ・キチマリ大使による講演ならびに本分科会メンバーによる5つの研究報告が行われ、会場の参加者を含めて活発な質疑が行われたとの報告がなされた。次に、同シンポジウムの成果の公刊にむけた検討が行われ、Springer 社から英語の編著書として公刊する可能性について、具体的な話し合いがなされた。その場合、全体として、8000語の論文10本程度が必要となるため、登壇者以外の委員や外部研究者への執筆依頼を行うことになった。2025年9月

あたりを原稿提出時期とする可能性が高いが、委細は 3 月の分科会会合において検討する予定である。

(2) 今後の分科会活動について

・資料1と資料2に基づいて、日本学術会議による「未来の学術振興構想」募集があり、日本国際政治学会が申請した「海外エキスパート・サーベイ調査を通じて見える日本と諸外国との関係の総合的研究」が採択されたことの報告がなされた。

・資料3と資料4に基づいて、デジタル分科会との連携により、人道危機における一般市民の避難ルートについてのデジタルマッピング研究が進行中である旨の説明がなされた。国際政治分科会としての対応については、引き続き議論していくこととなった。

(3) 10 月の学術会議総会の申し送り事項(内閣府、第一部会、政治学委員会等)について

資料5「日本学術会議の法人化に向けて」(R5 12 月)、資料6「中間報告令和5年 12 月 21 日 日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会」、資料7「令和6年7月 29 日「法人化をめぐる議論に対する日本学術会議の懸念」に基づき、10 月に開催された学術会議総会の申し送り事項についての説明がなされた。

(4) その他

特になし。

議事録作成者 栗栖薫子